

| 羅 針 盤 | | | 方 策 | 点検・評価 | | 達成度 | 達成状況のまとめ及び次年度の課題 | 学校関係者評価 |
|---------------------------------|---|--|---|-------|----------|--|---|---|
| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | | 自己評価 | 外部アンケート等 | | | |
| I 特色ある学校づくりに努めていますか。 | 1 特色ある教育課程を編成していますか。 | ① 実験や実習を中心に主体的に取り組める科目、進路に応じた選択科目を多く設定している本校の教育課程に満足している生徒の割合が70%以上である。 | ・生徒の進路希望の実態を把握・検証し、生徒の実態に即した教育課程を編成する。 | A | A | A | 本校の実態ならびに新学習指導要領の内容を踏まえ、新教育課程について引き続き検討を行う。基礎基本の習得から、応用力を培うまでの授業ができる教育課程の編成を行う。 | ・学校の取組はとて素晴らしいと思うが、藤中生の中で藤中の「ここがいい」と思っている生徒が少ない気がする。 |
| | 2 特色ある取組を行っていますか。 | ① 習熟度別の履修形態に満足している生徒の割合が70%以上である。 ② 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が70%以上である。 | ・反復学習による基礎学力の定着を第一義とするが、習熟度の高いクラスについては授業内容の難易度をあげるなど、生徒の実態に即した授業を展開する。 ・教育課程の特色を活かして様々な学習活動を行い、生徒の学習意欲や自己有用感を高め、職業観の醸成を図る。 | A | A | A | 意欲喚起につながる授業を実践するため、研究授業と授業研究会を定期的に開催して教員の授業力の向上を図る。研究授業・授業研究を行うとともに、さらに教員研修等を通して教員の授業力向上を図る。 アクティブラーニングを効果的に取り入れた授業を実践するとともに、探究的に取り組む学習活動を積極的に実践する。また、授業だけではなく、生徒が主体的に取り組むよう、文化祭等の行事や部活動等の教育活動全体を通して生徒に働きかける。教育活動全般を通して、生徒の良さを引き出して自信をつけさせる教育活動を推進する。 | |
| II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。 | 3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 | ① 年2回実施する授業アンケートの結果、授業が改善されたとする生徒の割合が60%以上である。 ② 授業がわかりやすいと評価している生徒の割合が、全ての教科で70%以上である。 | ・記述式のアンケートを授業にフィードバックし、常に授業改善に取り組む。 ・生徒に予習や復習を求めただけでなく、教員が教授法について学び、授業においても生徒の主体的な活動を充実させる。 | A | B | A | 各科目・各教員に対して生徒の意見が反映されるような授業アンケートをとり、職員に迅速にフィードバックする。また、教科を越えた職員相互の授業見学を行うとともに、職員研修を通して授業改善につなげる。授業アンケートや模試の結果等を羅針盤にしながら、さらに授業力が高まるよう研鑽を重ねる。 個に応じた組織的な指導の充実を図り、生徒がわかる楽しさを味わえる授業を推進し、進路実現に資するよう全校的取り組みを実践する。分かりやすく、学力が高まるよう、教師－生徒間のコミュニケーションはもちろん、教師間、教科内、教科間のコミュニケーションも高めていく。 | ・変化の激しい昨今だが、学校は生徒に親身になって指導に取り組んでいる。 ・今後もさまざまな変化があると思うが、引き続き親身になって指導に取り組んでほしい。 |
| | 4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。 | ① 進学課外の内容に満足している参加生徒の割合が80%以上である。 ② 授業への取り組みが進路実現に関わりがあると考えている生徒の割合が80%以上である。 | ・教科ごとに課外内容を検討し、3年間を見通した計画的な進学課外を実施する。 ・各教科で知識・技能・態度など職業生活との関わりを意識した授業を実践する。 | A | A | A | 生徒の実態に合わせて課外内容を工夫する。内容とともに生徒が達成感を感じられるよう指導の工夫をする。部活動の時間も配慮し、課外に参加しやすい状況を確認する。生徒の進路希望に合わせた柔軟な対応を行い、課外への参加の意義を感じられるよう工夫する。 教務部とも連携し、教科横断的な指導や授業実践における探究の視点を取り入れていく。学習が将来の仕事にどのように結びついていくかを考えさせるキャリア教育を実践する。社会や職業とのつながりを意識して教材を工夫することで、生徒の知的好奇心を喚起し、将来についてイメージできるようにする。 | |
| | 5 組織的・継続的な指導を行っていますか。 | ① 日頃の清掃活動や環境美化に積極的に取り組む生徒の割合が70%以上である。 | ・環境教育を実践している教科と連携を持ち、環境委員が「学校をきれいにし隊」を組織し、校舎周辺の美化に努める。 ・各生徒が校内の美化に努める。 | B | B | B | 学年を超えた環境委員の活動に力を入れ、今後も清掃活動・ボランティア活動を活性化させる。各学期毎のモップ交換や「学校をきれいにし隊」等の委員会活動を通じて、生徒の自主性を引き出すことに重点を置いている。 | ・校内見学の際に、すれ違う生徒が気持ちよくあいさつをしてきて、とてもよい印象を受けている。 |
| | 6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。 | ① いじめの防止や早期発見に関する学校の取組に理解を示している生徒が80%以上である。 | ・各学期1回および問題発生時に臨時のアンケートを実施し、いじめの把握と対応を早期から厳格に行う。 | A | C | B | いじめ問題に限らず、問題行動はSNSに起因する事案が多かった。今後は情報モラル教育の指導内容を見直し、改善に向けて検討を重ねていく。いじめ問題に係る取組は、入学者説明会、入学式、始業式、終業式、学年別懇談会、生徒指導だより、PTA会報、オクレンジャーなどを通じ、生徒や保護者へ学校がいじめ問題に対して取り組んでいる内容と方法を発信し、その回数も増やしていく。 | ・「意思ある人になるための12の力」という、目指す生徒像を示していることも、ゴールが明確でだれにでもわかりやすくすばらしい。 |
| 7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。 | ① 各月の遅刻率が2%以下である。 | ・担任が生徒へ働きかけるとともに、遅刻生徒の保護者と連絡を取り協力を得る。 ・一定回数ごとの指導を確実に実施する。 | B | | B | 生活習慣の乱れと時間を守ることの重要性を生徒自身に理解させるとともに、保護者への協力依頼を粘り強く行っていく。また、交通事故の未然防止の観点からも、5分前登校から10分前登校を推進し、基本的な生活習慣の確立に向けた取組強化を図っていく。 | | |
| | ② 生徒の自転車通学時における交通事故が10件未満である。 | ・交通安全教室や自転車点検の充実を図り、生徒の交通安全に対する意識を高める。 | C | | C | 交通事故を他人事として捉えている生徒が多い。その意識の現れがヘルメット着用率の低さである。ヘルメット着用の指導に絡めて、身近に起こっている大きな事故の事例などを伝え、他人事から自分事を感じ取れるような取組と指導内容を検討する。保健の授業でも交通安全を重点指導項目として指導することが望まれる。 | | |
| | ③ 悩み事などの教育相談の体制を熟知している生徒の割合が80%以上である。 | ・スクールカウンセラーと協力し、生徒が相談しやすいと感じられる教育相談体制の充実を図る。 | A | B | B | SCを利用する生徒は減少傾向であるが、継続して利用する生徒が多く、SCと生徒の信頼関係が構築できていると考えられる。悩み事を相談することが、「人に弱みを見せたくない」「相手を悩ませてしまうのでは」「悩みを否定されるのが怖い」「どう話したらいいかわからない」「そもそも他人に伝えることではない」などの心理傾向を持つ生徒が潜在していることを忘れてはならない。今後はSCのみならず、民間の相談機関も気軽に相談できる雰囲気作りを醸成していく。 | | |
| 8 生徒会活動・部活動の充実・発展に努めていますか。 | ① 生徒会活動が充実していると評価した生徒の割合が70%以上である。 ② 部活動が充実していると感じている部員の割合が70%以上である。 | ・生徒が学校生活に対する意見・要望を提案する機会を設ける。 ・生徒に各行事に積極的に参加させ、学校生活を充実したものにすする。 ・各顧問が積極的に部活動に関わり、計画的・組織的に部活動を推進する。 | A | A | A | 文化祭・球技大会などリモートでは開催できない学校行事を行うことができた。開催にあたり立案から運営を生徒会がリーダーシップをとって開催できたことが意義深かった。生徒は達成感・充実感を味わえたことに加え、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることに繋がった。 職員会議の後に開催している部顧問会議において、安全管理計画・安全指導計画の確認や見直しに加え、「部活動離れ」「部活動の地域移行」についても検討の場を設けて対応策を考える必要性を感じている。 | | |
| IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。 | 9 計画的な指導を行っていますか。 | ① 「進路通信」など学校からの進路情報が役立つと評価する保護者の割合が70%以上である。 ② 進路行事や総合的な探究の時間、LHR等で実施している進路学習が、進路決定や進路実現に役立つと評価する生徒の割合が70%以上である。 | ・「進路通信」を活用して家庭内での相談に生かせるようにする。 ・保護者の進路指導に対する要望を指導計画に反映させる。 ・学年の段階に応じた進路学習を計画する。 ・キャリアパスポート等での振り返りを通じ、様々な経験と関連づけて自分の興味関心や成長を説明できるようにする。 | A | B | A | 「進路通信」「進路の手引き」に、先輩の体験談や資料等、生徒にとってより身近な話題を充実させる。進路の手引きをHR活動や三者面談等、実際の指導場面で活用していく。進学希望の生徒には、大学入試の激しい環境変化をリアルタイムで伝えられるよう工夫する。就職希望の生徒に対しても適切な情報提供を行う。 地域と連携した「総合的な探究の時間」のカリキュラムを引き続き充実させる。進路希望に合わせた上級学校見学や職場見学、インターンシップなどを実施し、進路意識を向上させる。より実践的な活動を展開することで、自主的に探究に取り組ませ、目的意識の醸成につなげる。 | ・授業を核として学校づくりに努めていて、それが、生徒や保護者にも伝わりつつあることが分かる。 |
| | 10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。 | ① 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒の割合が70%以上である。 | ・自己理解と職業や上級学校についての知識を深めさせ、進路実現への道筋を示す。 ・二者面談を通じて進路意識の向上と進路方針の明確化を図る。 | B | B | B | それぞれの生徒が目的意識を持って、就職・進学することができるように、適切な情報提供を通じて意識の向上を図る。土曜課外や難関大学セミナー等を実施し、生徒の進路に対する意識を向上させる。土曜課外や模試の受験等、進路実現に向けた着実な取り組みを実施し、進路意識を高める。 | ・生徒の主体性を育むため、生徒が主役の授業をさらに推進してほしい。 |
| V 開かれた学校づくりに努めていますか。 | 11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。 | ① ペーパーではなく、オクレンジャー（一斉配信システム）による情報配信、連絡を増やしていることに満足している生徒・保護者の割合が、それぞれ60%以上である。 ② なんらかのPTA行事（総会、学年・学級懇談会、専門委員会の活動）に参加している保護者が50%以上である。 | ・一斉配信システムを活用し、必要な情報を素早く確実に生徒や保護者に配信する。 ・各種のPTA行事（総会、学年・学級懇談会、専門委員会の活動）の内容等の充実を図り、また行事への参加を保護者に呼びかける。 | A | B | A | オクレンジャーは、保護者連絡時における有効な通信手段として、引き続き適切に活用していく。 地域の方々や中学校の生徒・職員を対象にした「ひびき」を、オクレンジャーで保護者にも送り、生徒や学校の動向がわかりやすく伝わるよう努める。生徒から保護者への行事・活動の連絡をどのように徹底するか、PTA活動の意義をどのように保護者に理解していただくかについて、引き続き検討を進めたい。 | ・教師の自己評価はほぼ高く、生徒や保護者とのギャップがあることは否めない。学校の経営方針や教師の熱意、指導が十分理解されないのかもしれない。学校は地域や保護者と協働してよりよい教育を実現すべきなので、引き続き今後の課題であると感じる。 |
| | 12 ICTを活用した指導を行っていますか。 | ① ICTを活用した授業に満足している生徒の割合が70%以上である。 | ・各教科担当が端末を積極的に活用し、より分かりやすい授業の展開を図る。 ・職員間で端末の活用に関して情報共有を図り、ICTを活用したさらなる授業改善に努める。 | A | A | A | 端末の効果的な活用法について、職員間での情報共有や校内研修を継続的に実施する。各教科内で行う探究的な学習や、STEAM教育と関連したICTの活用を促進し、授業改善につなげていきたい。 | ・SNSを介した問題行動への対応は、様々なことに最大限配慮して指導を進めるが、一部の生徒や保護者には伝わらないことがある。警察等の関係機関への相談や通報の線引きを明確にして、アナウンスする必要があるかもしれない。 |
| VI 教育デジタル化に努めていますか。 | 13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。 | ② ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の60%以上が満足している。 | ・グーグルフォームやオクレンジャーのアンケートフォームを活用し、分かりやすく回答が容易なアンケートの作成を行う。 | A | A | A | アンケート実施者・回答者ともにICTを活用したアンケートに習熟してきてはいるが、まだ十分に活用されていない業務もある。業務の精選もしつつ、ICTを活用した業務改善をすすめていきたい。 | |